



Model Class 2014 for the 21st Century Education

2014 年 9 月 14 日（日）、日本ヒューレット・パッカート本社（大島）にて、『21 世紀型教育のモデル授業 2014』と題したイベントが開催されました。このイベントでは、3 種類のモデル授業とタウンミーティングを実施しました。5 月から実施してきた授業 A「スマトラトラとわたしたち みんなの未来を考えよう」では、仙台市内の小学校と東京のインターナショナルスクールの生徒が環境問題や社会問題について考え、ドキュメンタリー番組を制作してきました。4 ヶ月にわたる授業 A の軌跡と、9 月 14 日のイベントについてご報告させていただきます。

スマトラトラとわたしたち みんなの未来を考えよう

1 回目の授業は、2014 年 5 月 11 日（日）に仙台市八木山動物公園にて実施しました。スマトラトラのケアヒ（現在は上野動物園へ引っ越し）は、東日本大震災発生直後の 2011 年 4 月に、ハワイのホノルル動物園から貸与されました。八木山動物園に活力をもたらし、被災地の人々を元気づけてくれた感謝の気持ちを伝えるため、子どもたちはドキュメンタリー番組を制作していきます。1 回目の授業では、園内の動物調査・発表を通じたチームビルディング、スマトラトラの学習と取材、ドキュメンタリー番組の内容について、話し合いを行いました。



授業の流れ



1. アイスブレイキング

作成したマインドマップをもとに、1 対 1 で 30 秒の自己紹介をします。

2. 動物園を歩こう！

4 グループにわかれて、八木山動物公園の動物について調査します。出発前にチームでルートを話しあい、配布されたタブレットや各自のカメラを持って動物を撮影に行きます。



3. 発表準備

撮影した写真を確認し、GoogleSlides を使って発表スライドを作成します。

4. 発表準備

グループごとに調査した内容を発表します。

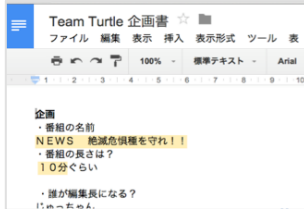


5. スマトラトラについての基調講演

八木山動物公園の阿部さんより、絶滅危惧種であるスマトラトラについてお話を伺います。ケアヒ（雄）がホノルル動物園からやってきた時のこと、ケアヒとバユ（雌）が出会った時のこと、そしてその子どもたちのことなど、生徒たちは真剣な顔つきで聴いていました。絶滅危惧種の保護について、自分たちにできることをこれから考えていきます。

6. トラ舎へ！檻の中へ！

スマトラトラについて学んだところで、実際に獣舎へ取材に行きます。飼育員さん付き添いのものと、今回は特別にスマトラトラの寝屋へ入れていただきました。



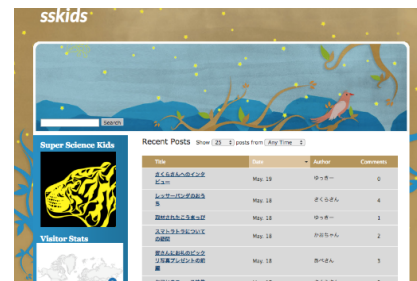
7. ドキュメンタリー番組の企画会議

制作する番組について、チームで話し合います。番組のスタイル、長さ、内容などについて出した意見を、Google Documentsにまとめていきます。さらに、先生からブログ（クラウド上に用意した教育ブログ）とその使い方についてレクチャーを受け、生徒たちは次回の授業まで、このブログを通じて議論し合い、取材や撮影など準備を進めていきます。

Point 家庭学習期間のコミュニケーション

家庭学習期間中、教師と生徒はブログを通して情報交換を行ってきました。各生徒にアカウントを割り当て、自分のブログページを持たせます。記事の投稿と他人のブログへのコメントにより、新しい情報を全体で共有したり、グループメンバー同士で進捗状況を確認できたり、コミュニケーションをとることができます。生徒が記事やコメントを投稿する際は、公開前に教師の確認が入ります。

今回は動物園のスタッフの方にもご参加いただき、活発な情報・意見の交換が見られました。



2 回目の授業は、2014 年 6 月 15 日（日）に日本ヒューレット・パッカーカード仙台営業所内と仙台市八木山動物公園にて実施しました。

授業の流れ

● 午前中（@日本ヒューレット・パッカーカード仙台営業所）

1. 授業開始

まずはグループで進捗を確認し合い、クラス全体に向けて発表します。「ケアヒ、子ども 2 頭それぞれのお別れ会に行った」「映像を撮影した」「ブログでコメントした」など、しっかり活動して来た様子が伺えました。

Point 家庭では知識の学習、学校では知恵の学習

“Thayer Method”として知られている「反転授業」を実施し、家庭では動画や e-learning 教材によって基礎を学び、学校では教師の指導のもと、応用問題やディスカッションを行います。

2 回目の授業は、各グループが全体に向けて進捗を報告するところから始まります。1 回目の授業でグループごとに行った役割分担をもとに、子どもたちは各々で調査活動を進めてきました。八木山動物園から上野動物園へと移るケアヒのお別れ会の様子を取材に行った生徒もいれば、絶滅危惧種についてパソコンやタブレットで調べ学習を行ってきた生徒もいました。

2. 情報モラルの確認

匿名でのウェブ上でのやりとりに関する動画を見たあと、家庭学習期間中の自分たちの発言が適切であったか、振り返りました。



3. ハンズオンでツールの使い方を伝授

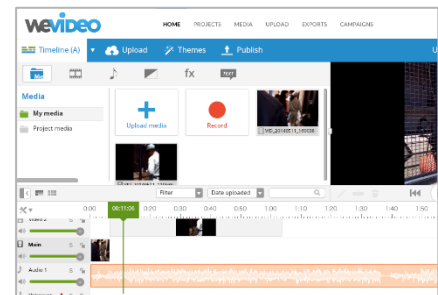
各生徒に Google アカウントを配布し、実際にパソコンを操作しながら、メールの送受信や Google ドライブの使い方、ドキュメントの編集方法について学びました。アカウントは、Google App により使用可能な機能を制限し、またメールのやりとりに関しては監視下におけない危険性を考慮し、今回の授業では使用しませんでした。

4. 動画編集ソフトの紹介

堀井先生よりオンライン上でコラボレーション作業ができる WeVideo についての紹介がありました。詳細な使用方法については、夏休みの特別授業で行う予定です。

Point オンラインツールの活用

ブログに加えて、今回の授業からオンラインストレージサービスの Google Drive と、クラウド上の無料動画編集サービスの WeVideo を利用します。Google Drive では、取材時に撮影した写真や動画の共有と、ドキュメント機能を用いて企画書の作成を行います。WeVideo では、取材した画像や動画を使って、ドキュメンタリ映像を作成していきます。クラウド上のサービスを使うことで、生徒は自宅からもグループメンバーとコラボレーション作業することが可能になります。



● 午後 (@仙台八木山動物公園)

1. 講演「絶滅しそうな動物と私たちの暮らし」

今回お話してくださったのは、WWF ジャパンの佐久間さんです。最近ニュースになった絶滅危惧種のニホンウナギを例に、「レッドリストとは何か」、「そこに掲載されている動物が減っている原因な何か」について学びました。後半では、スマトラ島のパームオイル農園の拡大をテーマに、4つのグループがそれぞれ異なる立場（スマトラ島で農業をやっている人／スマトラ島の経済大臣／パームオイルを使って食品を作る会社社長／スーパーに買い物にきたお母さん）の立場で、農園拡大について考えるワークショップが行われました。

生徒たちは、いろいろな視点から問題を捉えることで、単に自然を守る解決策ではなく、自然と人間が共存していける解決策を考える大切さに気づくことができました。



2. 計画書の推敲

1回目、2回目の講義や取材を通して、ドキュメンタリ映像のための素材も揃ってきました。いよいよ制作の開始となります。これからの制作作業を円滑に進めるためにも、もう一度グループの計画書を見直し、先生からの指導を頂きました。

オンライン上で作成してきた計画書を一度印刷し、グループで話し合いながら追加修正していきます。



3. インタビュー取材

レッドリストで危急種とされているホッキョクグマの撮影と、園長さん、スマトラトラの飼育員さんへのインタビュー取材を行いました。



6月に実施された2回目の授業から、9月に実施される3回目の授業の間にも、以下のような活動を実施してきました。

I. ケアヒに会いに、恩賜上野動物園へ

実施日時：2014年7月13日（日）12:30～15:30

恩賜上野動物園の「うへのトラ大使キックオフイベント2014」との合同授業でした。恩賜上野動物園の土居園長さんのお挨拶に続き、教育普及課の方からうへのトラ大使の活動のご紹介をいただきました。また、SSKの子どもたちと堀井先生から、私たちの授業のご紹介をしました。

その後、ケアヒと再会し、土居園長さん、トラの飼育員の方にインタビュー取材をしました。飼育員の川上さんから、ケアヒを贈ってくれたホノルル動物園へのメッセージもいただきました。

今回は東京にいる少数有志による活動のため、保護者の方にもイベントの記録や撮影など、積極的に子どもたちの支援をしてくれました。



II. ビデオ会議システムを用いた授業

実施日時：

2014年7月13日（日）	10:00-10:30	Team Turtle
	10:30-11:00	Team Rabbit
	11:00-11:30	Team Bear
2014年7月17日（木）	17:00-17:30	Team Gorilla

2回目の授業から1ヶ月が経過し、この間に仙台と東京ではそれぞれイベントが開催され、有志が参加しました。今回のビデオ会議による授業では、お互いにイベントの報告をし、さらに今後の作業内容、スケジュールや役割分担について確認しました。インターネットを通していても相手の顔を見ながらの会話をすることで、密度が高いコミュニケーションが可能になります。

III. 仙台での夏休み特別授業

実施日時：

2014 年 8 月 2 日（土）	10:00-17:00 Team Turtle 10:00-17:00 Team Bear
2014 年 8 月 3 日（日）	10:00-17:00 Team Rabbit
2014 年 8 月 9 日（土）	10:00-17:00 Team Gorilla

8月上旬に仙台で実施した授業では、チームごとにドキュメンタリー番組の制作を行いました。WeVideo の使い方について学び、動画、収録したナレーション、BGMとして用いる音楽の編集を行いました。また、日本語のキャプション原稿を作成し、ブログにアップしました。アップされたキャプションは、東京にいる西町インターナショナルスクールの生徒たちが中心となって英語に翻訳し、動画に加える作業を行いました。

参加者の保護者からは以下のようなメッセージをいただいています。

子供にとっては、この夏休み、西町の子やネット上の英語にたくさん触れ、英語がとても身近に感じられたのではないかと大変感謝しております。また先日、息子が Google Drive 上の日本語の字幕を書き換えていたら、グループメンバーのカーソルが現れ、すごいスピードで英訳し始めました。追いつかれないように焦っている姿は、かなりほほえましかったです。ネット環境もどんどん良くなりますね。

Model Class 2014 for the 21st Century Education

9月14日のイベントでは、授業Aに加え、絶滅危惧種の保護をテーマとして、プログラミングツールのスクラッチやスクイーク Etoys を活用した授業B・Cも実施しました。またタウンミーティングでは、日米の政府機関、米国商工会議所、企業にご参加いただきました。

イベントの目的

1. 東日本大震災の被災地の子どもたちの支援を行う。

2. ICT を活用したモデル授業を3種類行い、21世紀型教育の普及を促進する。

A. 「スマトラトラとわたしたち みんなの未来を考えよう！」

・クラウドを活用して、遠隔地にいる子どもたちが共同でドキュメンタリー番組を制作する

小学5、6年生
(11-12才)
仙台市内の公立学校とインターナショナルスクールの生徒

B. 「絶滅危惧種を救え！スクラッチ・プログラミング教室！」

・プログラミングについて学び、手書きの作品をスキャンした画像を用いた動物図鑑と動物保護にちなんだゲームを作る。

小学1-3年生
(6-8才)
仙台市内と東京の生徒

C. 「地球の未来を考えよう！スクイーク・プログラミング教室！」

・ディベートで環境社会問題を議論し、プログラミングをして自分たちで考えた未来の社会を想像したプレゼン資料を作成する。

小学4-中学1年生
(9-13才)
仙台市内と東京の生徒

3. 仙台、東京やインターナショナルスクールという異なった教育環境で育つ子どもたちが合同授業で交流することで、多様性の共存を知ってもらう。

4. 絶滅危惧種の保護や環境問題をテーマとした課題解決型の授業を提示し、その普及を促進する。

ICTや教科書を使う、机の上での勉強だけでなく、生きている動物と直接触れ、また WWF ジャパンの動物保護に関する講演や WS を通して環境問題への関心を高め、課題を自分に関係あるものとして考えさせる。

5. ハワイのホノルル動物園との交流を通して、グローバルコミュニケーションの面白さを知ってもらう。

“ケアヒ”を日本の動物園に貸してくれたホノルル動物園とのビデオ会議を通して、完成したドキュメンタリー番組の発表と質疑応答を行う。

6. 教育における最先端の ICT 環境の例を示し、教育における ICT 活用の課題と解決策を検討する。

デジタルコンテンツ、ブログ、タブレット、PC、クロームブック、大版プリンター、クラウド、ビデオ会議システム、BYOD（各自や家庭の様々なデバイスを学校で使う）、Wi-Fi の活用事例や ICT を活用する上でのリテラシーやモラル教育のモデルを示す。

7. タウンミーティングを行い、日米の政府、産業界、大学、研究機関、NPO とのコラボレーションを促進する。

それぞれの立場で 21 世紀型教育にどのように取り組んでいるのかを紹介し、それを踏まえて保護者も交えた議論を行い、社会全体としてどのようにコラボレーションして行くべきかを検討する。

8. 今回のイベントの成果を、日本をはじめ世界に発信し、その普及を促進する。

3 種類のモデル授業の詳細（授業 A, B, C）

A. 「スマトラトラとわたしたちみんなの未来を考えよう！～ドキュメンタリー番組制作～」 （対象：小学 5、6 年生、11-12 才）

5 月から各グループで制作を進めてきたドキュメンタリー番組の最終調整作業を実施しました。夏休み特別授業後は、オンラインツールを活用してグループ制作を行ってきました。その制作の様子や遠隔授業を再現するため、会場に「学校」と「家庭」の環境を想定した部屋を用意し、デモンストレーションを実施しました。進捗の早いチームは、大型プリンターで壁新聞も作成しました。

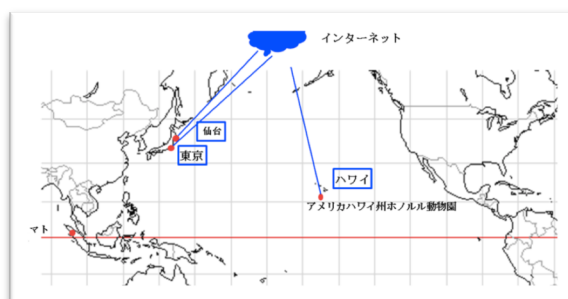
使用した ICT

クロームブック、ノート PC、2in1 PC、タブレット、Google Drive (Google Apps)、WeVideo (ビデオ作成ツール)、Kidblog (教育機関向けブログ)、V-CUVE (ビデオ会議システム)



クラウド

(Google Drive、WeVideo、Kidblog)



インターネットとビデオ会議システム



クロームブック



ノート PC



2in1 PC (教師用)



タブレット

B・C 合同授業.「スマトラトラのアブラヤシ農園の今後について考える」

WWF ジャパンの佐久間さんによる、グループディスカッション形式のワークショップが行われました。まずは絶滅危惧種であるスマトラトラの保護活動やスマトラ島の環境問題の現状の話の聴き、続いて C クラスは 2 人 1 組の 6 つのグループに分かれ、現実社会の様々な立場の人や動物の役割が与えられ、アブラヤシ農園の今後について話し合います。最後はグループごとに、それぞれの役割の視点にたった意見を、セリフとして表現しました。この後、B と C のクラスに分かれてそれぞれの授業を行いました。

B. 「絶滅危惧種を救え！（スクラッチ・プログラミング教室）」

（対象：小学 1-3 年生、6-8 才）

スクラッチを用いて動物図鑑とゲームをつくる授業を実施しました。参加者には事前に、家庭で絶滅危惧種の調べ学習を行い、A4～画用紙程度の大きさの紙に動物の絵とその紹介（文）を描いてくるという宿題が出されていました。当日、各自が持参した作品をスキャンし、ペインティングツールで動物の絵だけを画像ファイルとして作成し、スクラッチのスプライトとして取り込み、図鑑とゲームで使用しました。また、スキャンした作品を大きく印刷し、作品の発表時に活用しました。



本授業では、生徒が絶滅危惧種の動物について理解を深め、またプログラミングに触れる楽しさを知ることが目的としています。また、アナログツール（紙と鉛）の良さを生かしつつ、デジタルツールを活用するスタイル、家庭での事前学習と学校の授業との連携学習、大きな印刷物を使った展示発表も、本授業の特徴となっています。

使用した ICT

クロームブック、大判プリンター（スキャナー機能付き）、スクラッチ（プログラミングツール）



クラウド



スクラッチ



クロームブック



大判プリンター

C. 「地球の未来を考えよう！（スクイーク・プログラミング教室）」

（対象：小学 4-中学 1 年生、9-13 才）

2 人 1 チームで、プログラミングによるアニメーションを使い、未来を描きます。

まず、合同授業で行った WWF ジャパンのワークショップの時は立場を変えて、動物の保護活動に関するディベートを実施しました。その後チームに別れ、自分たちの意見について話し合い、スクイーク Etoys でプログラミングをし、二人の意見を表現するアニメーション作品を作成しました。



本授業では、生徒が単にプログラミングスキルを身につけるだけでなく、課題についてチームで考え、自分たちの意見をまとめて、その意見を発表し質疑することでコミュニケーション能力を養うことを目的としています。

使用した ICT

タブレット PC、タブレット・ハイブリッド PC、スクイーク Etoys（プログラミングツール）



スクイーク Etoys



タブレット PC



タブレット・ハイブリッド PC (教師用)

成果発表会の詳細

まずは午前実施した B と C のプログラミング教室の発表会を実施しました。それぞれの授業を担当した教師による授業の目的・内容、授業時の様子についての報告の後、子どもたちによる作品の発表を行いました。



続いて、A クラスの 21 世紀型教育のモデル授業についての発表会を行いました。ここでは、ハワイのホノルル動物園と中継をつなぎ、仙台の小学生と西町インターナショナルスクールの生徒たちで混成された、4 グループによるドキュメンタリー番組の紹介と、上映を行います。上映後には、ホノルル動物園からメッセージをいただきました。最後は、授業を担当してきた西町インターナショナルスクールの堀井先生による授業の説明と報告が行われました。

使用した ICT

2in1 PC（プレゼンター用）、高速インクジェットプリンター、大判プリンター



2in1 PC



高速インクジェットプリンター



大判プリンター
(スキャナー機能付き)

タウンミーティングの詳細

「21世紀型教育のモデル授業」に参加した生徒の保護者、大学や動物園関係者、NPOの方々を交えたタウンミーティングを実施しました。

米国国立科学財団(NSF) 東京事務所のケリーナ・クレッグ-ヘンダーソン所長、文部科学省の降旗友宏氏、総務省の元山和久氏、日本HPの久嶋俊一氏をお迎えし、ACCJからご参加いただいたインテルの緒方功治氏の進行のもと、教育へのICT利用に関する政策や方針について、パネルディスカッション形式での発表を行っていただきました。その後、会場の参加者との間で活発な意見交換が行われました。



21世紀教育の5つのポイント

1. ICTの利活用

2. 教師の授業設計能力

3. NPOの果たす役割

4. 起業のCSR活動

5. 家庭での教育

瓜谷理事長からのコメント

今回のモデル授業は、日米政府、教育委員会、国内外の動物園、日米の経済団体、NPO、企業、保護者の支援があって実現しました。21世紀においては、今まで以上に社会全体が積極的に教育に関わって行くことが求められています。

表彰式の紹介

最後に、Aクラスの優秀なドキュメンタリー番組を制作したグループに対して、スーパーサイエンスキッズ理事長の瓜谷氏より最優秀賞・優秀賞が授与されました。



参加者からのコメント

子どもたちより

ビデオ制作で苦労したのは英語です。ヘルプやチュートリアルなどすべて英語なので苦戦しました。スマトラトラについて名前を聞いたことがなかったので、このプロジェクトに参加してみて、スマトラトラのことを知れてよかったです。これからは、スマトラトラなどの絶滅危惧種を自分たちでも守れるような取り組みをしていきたいなと思いました。

保護者より

ドキュメンタリー作品については、どのチームも素晴らしい作品ばかりで、たくさん時間を費やし取材や調査がされているのがよく分かりました。ワークショップについても、プログラミングだけではなく、絶滅危惧種の動物について調べることによって、自然と人間との間で起こる問題を知り、考えるきっかけが出来て良かったと思います。また、高学年の子供達は、いろいろな立場になり、しっかりと考えをまとめて発表していたので、感心しました。各学校に環境が整っていて、親や子供達にインターネットを利用する際にあたっての十分な説明と理解の上で有効活用が出来れば、有意義な授業になるのではないかと思います。娘も、スクラッチでゲームを作って遊ぶだけではなく、絶滅危惧種について知ることが出来たり、新しいお友達も出来て、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

タウンミーティングはそれぞれの立場の皆さんがどのように考えているのか、生の声をきくことができて、とても良かったです。アメリカ大使館の方の、科学は生活の中にあふれているという言葉が印象的でした。我が家は公立の学校に通っていますが、文科省の方のお話を聞いて、正直危機感を感じています。国の制度が充実するまで、今回のSSKのような機会を利用させていただいて、ICTを利用した学習を進めていかなければいけないと強く思いました。

子どもがウェブツールを使って学習する良いことは、学習ツールが即座に多様に選択できることだと思います。西町ではリサーチの際に使うべき推奨サイトを先生が指導しているので、サイト選択の点も安心できます。悪いことは、制限が掛けられないサイトやパソコンの使用で、不適切な情報が入るのを避けられないことです。精査されていないサイト情報を、指導が無い状態（年齢）で選択することにはリスクを感じます。西町で使われているウェブツール（Mathletics, Type to Learn, Timez Attack, etc）については、ゲーム感覚で計算等の反復練習ができるのが、とても良いと思います。PCにアクセスすることで、海外の学生と対戦できるのも、ウェブツールならではの面白さと広がりがあります。

日本の小中学校では、ICTの環境整備が遅く、それを扱える教師の育成も遅れています。また、教師が前に立って40人に向かって一斉指導を行う学習スタイルは私たちが子供のときからさほど変わっていません。教師、教科書が主体となった文科省のカリキュラムは「生きる力」などに主眼がおかれることによって改善されているとはいえ、まだまだな現状があります。堀井先生のモデル授業に参加して、西町の教育がグローバルスタンダードである一方、いかに日本では得難い、特異な環境にあるかということのを再認識しました。両親が日本人家庭の私達ですが、海外で働いた経験などから、英語を身につけることで広がる世界の楽しさやキャリアの選択肢を子どもたちにも持たせてやりたいという想いで、西町でのバイリンガル教育を選びました。英語、ITスキルが自然に身に付くと同時に、子ども達は早い段階で、言葉や生活文化の壁も知ることになりましたが、多様な人々との共存を自然と捉えるグローバルな感覚は、間違いなく彼らの中に根付いています。日本の学校が、西町に近い教育環境をつくる道のりはとても遠く感じますが、官民一体となった取り組み例を増やしていくのが、実は近道なのではとも思います。

関係者より

大変、素晴らしい授業に感動しました。スクラッチやスクイークも良かったです。ドキュメンタリー制作は世界162カ国で活動するボーイスカウトにとって、興味深いです。

子どもたちがとても楽しそうだったのが印象的でした。また、低学年向けの「動物図鑑とゲームの作成」教室では、子ども達がプログラミングソフトを使いこなしている様子に驚かされました。タウンミーティングでは、社会で新しい教育を創造する思いが伝わり、その思いに感銘を受けました。

仙台と西町の子供たちの作品、どれもそれぞれに特徴があり素晴らしい出来で、ひたすら感激でした。B、Cグループの子供たちも、短い時間の中で学ぶ事を楽しんでおり、短い時間であっても確実に成長しているように思い、驚かされました。様々な立場の人々の協働と努力が9月14日に実を結んだと感じています。

ボランティアスタッフより

私は特に仙台からきた子供たちのキラキラした目で真剣にスクラッチに取り組む姿を見て、本当に感動しました。今まで絶滅危惧種の動物のニュースを見ることがありましたが、地球全体としてどのような取り組みが行われているかを知りませんでした。今回の授業のように子供たちが純粋な探求心をもって事前課題に動物の絵を描いて、スクラッチを行い図鑑を完成させている様子を拝見しまして、この探求心を知る事こそが絶滅危惧種の地球全体の問題を解決する力につながるのではないのかと考えています。

現在小学生と話す機会はあまりありませんが、今回のイベントで彼ら彼女らのエネルギーとただひたすらに純粋に「作品を完成させたい!」、「ミニゲームで勝ちたい!」という率直な気持ちの強さ、というものは自分を成長させる大事な要素だと改めて認識させてもらいました。WWFの方も仰ていましたが、自然破壊（木材の伐採）と動物保護の問題はどちらが善か悪か、立場を変え様々な意見を考慮して慎重に物事を進めなければなりません。そのことも来年からエンジニアとして働く僕は考え得る事の中で、最もお客様が満足していただけるもの、会社として利益があるもの、社会に貢献できるもの、その他多くの事を考え、それらを同時に、包括的に何が最善かを考えていかなければならない、と強く感じました。子供たちになにかを教える、というより僕自身すぐく身を改めさせられる機会でした。

LINKS

◆ イベントの紹介ドキュメンタリー動画

<http://vimeo.com/112823290> (This video was created by ©Reel Creative Films)

◆ 子どもたちの作品

A. 「スマトラトラとわたしたちみんなの未来を考えよう! 〜ドキュメンタリー番組制作〜」

Team Bear (最優秀賞)	http://goo.gl/IHRWTx
Team Rabbit (優秀賞)	http://goo.gl/eMHv9x
Team Turtle	http://goo.gl/4vjy0A
Team Gorilla	http://goo.gl/PkAG7K

B. 「絶滅危惧種を救え! (スクラッチ・プログラミング教室)」

<http://scratch.mit.edu/studios/529189/>

C. 「地球の未来を考えよう! (スクイーク・プログラミング教室)」

(準備中)

◆ マスコミの記事

【マイナビニュース】〔2014年9月22日(月)〕

日本 HP の Chromebook を使った ICT 活用「21世紀型教育のモデル授業」

<http://news.mynavi.jp/articles/2014/09/22/hp/>



主催:  特定非営利活動法人スーパーサイエンスキッズ

後援: 米国大使館、総務省、仙台市米国、商工会議所

日本経済団体連合会(経団連)、仙台市八木山動物公園、ハワイ州ホノルル動物園

協力:  西町インターナショナルスクール、 WWF ジャパン、 V-CUBE

スポンサー:  日本ヒューレット・パカード(株)